

私達の活動の目的の一つに、自分の住む街・地域の減災活動を積極的に推進するとあります。そのために昨年まで地域支援の強化を相互啓発として行ってきました。

今年からは地域活動は、各ブロックで主体的に対応強化してゆく、ブロックをまたぐ活動はブロック連携して対応することにするようにしてゆきたいと考えております。

また、それを支援するまた指揮するトップランナーを育成・強化してゆかねばなりません。積極的に指導・支援に携わっていただける方を募集しますので、是非参画されることを切望します。

今年も皆様方、ご家族の方々にも幸多き年でありますようにご祈念申し上げます。



本部総会は

日時	平成21年4月26日(日) 13:30~17:30
場所	名古屋市中区、伏見ライフプラザ12階第1研修室 (中消防署及び名古屋NPOセンター)
総会	13:30~15:30
講演	15:45~17:15 福和伸夫名古屋大学院教授「防災リーダーに望む」

多数のご参加をお願いします。

＜＜セミナー参加特集＞＞

①. 平成20年度あいち防災セミナー（第1回目）に参加して

西尾張ブロック 副代表 川村 莊一郎

平成20年度第1回目の「あいち防災セミナー」が、11月15日稲沢市民会館にて開催された。その一部を紹介してみる。

基調講演の常葉大の矢守氏からは、「稲沢市は防災に強いまち」と発言があり、いぶかしく感じた。

タネを明かせば、市街化区域が13%、つまり空き地が多い、隣の家がもたれかかってこない、類焼の危険性も少ない、ということだった。《田舎だもんネ・・・》

次に「クロスロード」の提案があった。これは、クイズ形式で知らないうちに防災を楽しんで学ぶもの。例えば「避難所へペットを連れて行く」ことをテーマにその是非を少人数で賛否に分かれて討論する。結論を纏めなくてもよい。一人ひとりが防災について真剣に考える良い機会になると感じた。



パネリストの日下部自主防（1000世帯）は、明治以前からの集落の消防組を母体とした組織であり、親子代々毎月ポンプの点検をするなどの基礎があり防災意識が高く、年2回の自主防災訓練は300人の参加があるという。

稲沢市からは、防災リーダー養成3年目に入り今後とも推進していくとの報告があった。

コーディネーターの栗田氏からは、防災にこれでいい、これで終わりはない、試行錯誤で繰り返し取り組みを前進させていくべきだ。災害時には、若い人にやってもらいたいことが山ほどある。あらゆる場で若い人を発掘して、行動できる人づくりを念頭に取り組みを進めるべきだと結んだ。



②. 平成20年度あいち防災セミナー（第2回目）に参加して

東尾張ブロック代表 加藤 千恵子

12月6日(土)午後 東郷町町民会館で上記のセミナーが開催されました。前半は永松信吾氏(防災科学技術研究所 防災システム研究センター研究員)による基調講演、後半は永松氏と地域の防災にかかわっている3名のパネリストによるフォーラムが栗田暢之氏(レスキューストックヤード代表理事)のコーディネートで行われました。

永松氏は講演のなかで、阪神淡路大震災のあとに子どもたちが書いた作文を例に取りながら地震の悲惨さ、その後の復興の大変さを訴えられました。子どもが書いた作文は何のてらいもなく、避難先の小学校のことを書いています。子どもなりに新しい環境に溶け込もうとしている様子に涙が出ました。永松氏は、「これから私たちは町



内会自主防災組織だけでよいのか」というお話には深く考えるところがありました。よく言う自助、共助、公助に対する疑問も投げかけられました。

後半の3名のパネリストは、諸輪(地名)自主防災組織代表、女性防災クラ長、そして筆者(あいち防災リーダー)の顔ぶれで、それぞれの活動内容の紹介やこれからの課題などについて話をいたしました。

- 1 町内会の役員は日頃から地域の行事が多くて、防災訓練に十分な時間が取れない。訓練を知らせる回覧板を回しているが参加者は少ない。
- 2 家庭から火を出さないをモットーに活動をしているので、皆さんも仲間に入ってください。
- 3 いろいろな活動をしているが、特筆すべきは目で見て触れてわかる非常持ち出し袋の紹介や家具転倒防止の話を5年間で91回行っていること。

町民全員が持ち出し袋を準備して、家具などで怪我をすることがないように「勝手に出前講座」を開催している。お声がかかればどこにでも行きます。

フォーラムの1時間の中に地域の防災力を高め、被害を少なくする話など結論は出ませんが、大事なのはこの国は地震が多い国であることの自覚を持って自ら準備できることは準備すること、余力があればご近所の人のも。



私はこのセミナーへの参加を通じて、あいちリーダー会会員の役目はたくさんあることをより一層感じました。リーダーの皆さん、各地で防災減殺の活動がまだまだ足りていないことを知りましょう。そしてこれからも元気に活動を続けていきましょう。

せっかく得た知識や実行力をお仲間と一緒にぜひ地域で役立ててください。

③. 高校生防災セミナーに参加して

本部広報部長

百花草 五男

12月25日に愛知県立刈谷東高校・体育館にて平成20年度地震防災フォーラム「高校生防災セミナー」に参加しました。この高校生防災セミナーは主催が県教育委員会で毎年開かれ愛知県下の県立&私立高校を問わず10校を募集し参加された高校の代表高校生を対象に1年を通じ5日間行うものであります。



おりしもこの日は最終日で午前中は福和先生の講義（「必ず出会う巨大地震に負けないために」）と代表高校2校（津島北高校・豊田西高校）の実践発表会が行われ、午後からは生徒&先生約300名を対象にワークショップを行ない、その後は修了式という日程でした。あいち防災リーダー会は会長からの依頼で各ブロックが召集され、集った会員20名で会場体育館内に防災用品・防災展示物を展示し、RSY（レスキュー・ストック・ヤード）栗田氏の司会進行でワークショップのファシリテーターを担当しました。



私事で申し訳ありませんが、私の息子（長男）も去年進学し普段高校生とはあまり触れあうことはないのですが、なんと実践発表代表校に息子の母校（津島北高校）でありましたので興味深く聞きましたが、さすが地元でも校則が厳しく“商業科”がありボランティア活動&地元商店に奉仕活動を行う高校でありますので発表内容（自文化祭に

て“はるかひまわり朗読劇の公演模様等）も地元高校を最頂（ひいき）するわけではありませんが充実していた内容に思いました。

あいち防災リーダー会の体育館内での防災広報活動は、多彩な防災物品&展示物が集結しましたので、参加高校生・引率高校教師から質問を受けるブースもかなりありました。私も住宅用火災警報器広報担当でしたがかなりの高校生からの質問を受けました。

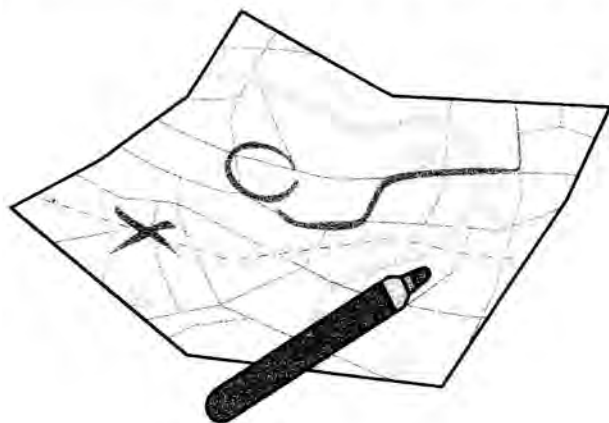
ワークショップでは私は残念ながら高校教師が集まるブース担当でしたが、最初は初対面同士でコミュニケーションがとれず苦労しましたが次第に打ち溶け、全体への発表ではさすが先生らしく上手く発表できたと思います。

愛知県教育委員会のこのような取り組みは、防災を若年層に広めていくことに大変必要なことだと思います。今後も毎年度続けて頂くことをお願いしたいと思いました。



西尾張ブロック総会は

日 時	平成21年3月29日	13時～
場 所	江南市民文化会館	
催し物	早川会長の講話 NPO説明会	



4. 防災よもやま話 No.23 私たちの社会の実力（消防・救命力）
名古屋大学教授 福和 伸夫

皆様、明けましておめでとうございます。お元気でお過ごしですか。皆様にとって新しい年が、災いが無く、素晴らしい年となることを祈念いたします。さて、この原稿は、東南海地震から64周年となる年末の12月7日に書いています。



1944年12月7日に発生した東南海地震は、11月24日の東京空襲を受けて、翌8日の太平洋戦争開戦記念日に名古屋の初空襲があるとの情報が寄せられる中、防空壕の準備をしている最中に起こりました。お昼時13時半頃に起きた地震で、わが国の航空機産業の拠点である半田の中島飛行機山方工場や、南区道德の三菱重工名古屋航空機製作所道德工場などが倒壊しました。両工場では多くの犠牲者を出し、特に、学徒動員されていた若い命が奪われたことは残念でなりません。ただ、当時は空襲への訓練も行われていたため、地震後の救出活動は速やかに行われたらと思います。軍は戦意が喪失することを恐れ、厳しい情報統制をし、震災の情報は伏せられました。しかし、米国では地震観測によって日本で関東地震を凌ぐ巨大地震があったことが察知され、当日のニューヨークタイムスやワシントンポストに大々的に地震のことが報じられています。厳しい情報統制と、若者が出征していたことなどから、後世にこの地震のことが十分に伝えられていないことが残念でなりません。

さて、この地震の1週間後の12月13日にはB29爆撃機90機が三菱発動機の大幸工場を空爆しました。同日には東洋一の動物園であった東山動物園の猛獣が治安維持のため射殺されています。以後、大幸工場は6回の空爆を受け壊滅します。さらに、1ヶ月後の翌年1月13日には深溝断層を震源とする三河地震が発生しています。

12月13日の空襲をきっかけに、全部で63回の空爆が名古屋を襲い、死者8630名、負傷者11164名、罹災者52万3千名を出し、名古屋は焦土と化しました。中でも、1945年3月12日の名古屋大空襲では、B29・288機が空爆をし、名古屋は5%を焼失、死者602名、負傷者1238名、全焼2万9千戸に及びました。さらに、3月19日の空爆では、死者1037名、負傷者2813名、焼失3万6千戸の被害を出しています。その後、5月14日の空爆では、B29・480機が名古屋を襲い、死者338人、負傷者783人、焼失家屋21905戸を出すと共に、名古屋城も焼失しました。さらに、6月9日の熱田空襲では、愛知航空機が空爆され、死者2068名、負傷者1944名を出しています。このように、戦時下に、2つの地震と度重なる空爆を受け、名古屋は壊滅しました。その後、100m道路建設や土地区画整理事業を始めとする都市計画により、名古屋は稀にみる整然とした都市になりました。

さて、今回は、名古屋が持っている救命・救急力について見てみましょう。名古屋市の消防局は、4部1校7課3室1所2隊40係のほか、各区に16の消防署と44

の出張所を持っていて、職員総数は約2300人、そのうち交替制勤務員が約1700名だそうです。実際には2交替で勤務し、休日もありますから、普段は600名程度の消防士さんが働いていることになります。救急隊は33隊、消防車・救急車計約240台、消防艇3隻、ヘリコプター2機を有しています。消防車は135台、消防団可搬式ポンプは446台で、消防隊は65隊だそうです。また、119番通報の回線数は16回線で、常時は10台稼働していて、13名が従事しているそうです。これだけの要員と機材で、平成14年には、火災件数1,297、救急出動87,187をこなしています。すなわち、1日に3~4件の火災と250件の救急出動をこなしています。

愛知県が実施した地震被害予測結果では、東海地震と東南海地震が同時発生したときには、名古屋市内で、全壊棟数21,000程度、半壊棟数59,000程度、出火件数260程度、焼失棟数6,200程度、死者数420人程度、負傷者数21,000人程度と予想されていますので、地震発生後の救命・救急や消火を既存の消防力で対応することは明らかに不可能です。

縁起でもないことですが、名古屋市でお亡くなりになる方は、一日平均で約50人、そして、八事斎場の火葬炉の数は46基、火力源は天然ガスです。こちらの方にも限界があることが分かります。

それでは、医療の力はどうでしょう。740万人ほど居る愛知県には、医師は約13,000人居ます。病院と診療所に大体2対1の割合で勤務をしているようです。そのうち、災害時に怪我などの外科治療をしてくれる外科医は約1,600人です。何と人口5,000人に1人の割合です。ちなみに、220万人強が住む名古屋市に限定すると、医師5,700人と外科医650人ですから、都心部の方が医療の力が大きいことがわかります。

一方、看護師さんの人数は、正規・非常勤・派遣を含めて約40,000人です。医者は概ね500人に1人、看護師さんは200人に1人程度ということになります。普段の患者さんは1日当たり、入院患者が60,000人程度、外来患者が40万人程度です。従って、医師1人当たり、毎日30人以上の患者さんを見ていることになります。また、愛知県下の病院や診療所にあるベッドの総数は約75,000で、そのうち、15,000程度のベッドが空いているようです。

愛知県による東海地震と東南海地震が同時発生したとき地震被害予測結果では、全県下での死者数2,400人程度、負傷者数66,000人程度と推定されていますので、この医師・看護師・ベッドの数では、量的に不足することが良く分かります。

このように、平時に私たちが持っている対応力では、来るべき東海・東南海地震での被害に対して十分な対応ができないことが明らかです。すなわち、今しなければいけないことは、被害を減らすことです。皆さんの力で、より多くの県民を啓発し、耐震化や家具固定などの事前の備えを進めることが最も重要なことです。

4. <<地域活動>>

北名古屋市自主防災会“DIG講習”

山下 喜三子

北なごや防災ボランティアグループとして、一つの夢がかないました。グループ結成5年目、2町合併（西春町・師勝町）後3年目に、念願であった自主防災会（50人）とのDIG講習（防災V17人）を実施することが出来ました。あいち防災リーダー・防災ボランティアコーディネーター・防災士・北名古屋市防災ボランティア養成講座修了者でグループが構成されています。

日頃の活動は、防災訓練や防災に関する講座の運営にかかわりながら、県の防災に関するイベントや研修に参加しています。自分達のスキルアップは大切な取り組みの一つですが、地域の自主防災会との交流は、グループ結成直後から大きな目標と考えていました。今回、私達の活動が認められたことと、行政の働き掛けが実を結びました。



<<スタッフで準備>>

2時間30分（予定は3時間）の講習のタイムテーブルを何度も見直し「あいち防災リーダーのためのハンドブック」を大いに活用させて頂き、本当に「お蔭様」と思っています。



これからも、会員一人一人が、地域のために、減災のために何ができるかを考え、互いに助け合い、認め合って、ボランティア活動を楽しんでいきたいと願っています。

最後になりましたが、お忙しい中、わざわざ出掛け下さいました早川会長に厚く御礼申し上げます。



<<発表>>

<<講習会の様子>>

講評やさまざまな形でのコメントを個々に頂きました。とても嬉しく、心に残っています。

編集後記

新聞報道によると、一般住宅の耐震化対策は相当遅れている。避難所となる学校ですら同様である。ネックは例え補助金が出て、対策を施すには多額の費用がかかるからである。住宅の補強には確かに膨大な費用がかかる。現在の経済情勢では庶民にはとても感が強い。

建物ができねば、家具が倒れるのを防ぐ方法がある。こちらは随分安い費用で可能である。少し知識があれば、少々の間と時間は掛かる。わからなければ、あいちリーダー会のメンバーの人にお願いするのも1つの方法である。自宅に入られるから嫌という人もある

う。

最後の手段です。日頃使わない物を捨てよう。そんな品がどこの家庭でも数多くある。我が家では、結婚時にパートナーが持ってきた和筆筒、洋筆筒、整理ダンス、三面鏡などはすべて捨てた。透明の衣装ケースに置き換えた。着物だけは、桐の押入ダンスに変えた。これで倒れる可能性のある大型家具は無くなった。さらに8本の本棚もすべて整理した。すべての本は古本屋へ引き取って貰ったり、欲しいという知人に貰っていただいた。3本の食器棚も捨てた。もちろん再利用していただいている物もある。中華料理を食べたいときには外食する。このよう

決めていくと食器類も随分片付いた。今では1本の食器棚があるだけである。日頃の掃除の楽なこ

と。
阪神大震災で学んだ震災対策。捨てる作業から始めれば、家具の転倒から最低限身を守ることができる。少ない用品での生活はサバイバルに通じる。多くの蔵書をなくし不便ではある。美術館巡りで多くの図録も蔵書としてあった。本を買う楽しみから、今では、図書館へ通う楽しみへと代わった。荷物の少ない家は快適です。日々の掃除がだ捨てる技術。安価に安全を求めよう。

(偏屈広報)